

高遠まき

Visual artist/Performer

**MAKI TAKATO**



Instagram



Webpage



## MAKI TAKATO

社交ダンスのプロダンサーとしての経歴を持ち、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズで舞台芸術、ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジで哲学を修め、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートの情報体験デザイン修士を首席で卒業。

哲学・民俗学的なアプローチからテクノロジーとアイデンティティ・身体の関係性をテーマに空間・立体・映像など様々なメディアで表現する。日本とイギリスを拠点にVictoria and Albert Museumを初め世界各地でパフォーマーとしても活動。

### 【Education】

- ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (Royal College of Arts)  
情報体験デザイン (MA Information Experience Design)
- ゴールドスミス・ロンドン大学 (Goldsmiths University of London)  
デザイン哲学 (Design and Philosophy)
- ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ (Central Saint Martins)  
パフォーマンスデザイン(Performance Design)

### 【Awards】

名古屋文化財団芸術展 奨励賞 2023年  
展示グラフィックデザイン 会長賞 2023年  
東京建物ブリリア・アートアワード 2022年  
サンワアートアワード 社長特別賞 2022年  
ロイヤル・カレッジ・オブ・アート 首席 2018年  
ロンドンバタシー・パーク 彫刻賞 2017年  
ロータリー財団 国際グローバル奨学金 2016年

### 【Exhibitions】

Ayame 10th, Stage Set Exhibition, Tokyo 2024  
Fukuya, Hiroshima 2024  
Designart Tokyo, 2024  
Tokyo American Club, Frederick Harris Gallery, Tokyo 2024  
GINZAART SESSION in Ginza SIX, Tokyo 2024  
Okurayama, THE GALLERY GINZA, Tokyo 2024  
Osaka Art&Design Osaka, 2024  
Yamamotoya Gallery, Kagoshima 2024  
Ginza Mitsukoshi Gallery, Tokyo 2024  
Magpie Gallery, Tokyo 2024  
ANA Crowne Plaza hotel, Hiroshima 2024  
NEW ENERGY Shinjuku, Tokyo 2024  
Osaka Kansai International Art Festival, Osaka 2023  
TERRADA What Cafe Gallery, Tokyo 2023  
Nagoya Cultural Foundation Art Exhibition, Nagoya 2023  
Tokyo Tatemono, THE GALLERY, Tokyo 2022  
Osaka Kansai International Art Festival, Osaka 2022  
SCIF21, SPIRAL, Tokyo 2021  
Fabbit Otemachi, Tokyo 2021  
Monster Kudan House, Tokyo 2019  
Open Sense Festival, London 2018  
Battersea Park Public Sculpture, London 2017  
Victoria and Albert Museum, London 2017  
Science Fiction Piccadilly Circus, London 2017  
Future Design Bio Future, London 2016

## Artist Statement

生命の本質とその二面性 - 強靭さと儂さ - を探求する私の作品は、人間存在の深層に迫ります。プロダンサーとしての経験を礎に、パフォーマンスアート、哲学、体験デザインを融合し、抽象概念を感覚的体験へと昇華させています。

今回の展示では私の故郷の長野の自然から着想を得た油絵作品から最新の表現であるシルバースクリーンシリーズの変化を表します。シルバースクリーンシリーズでは相互作用を鏡の反射によって表現し、目に見えないエネルギーを可視化しています。自然界のリズムと運動エネルギーを捉え、油絵の具の重なりや空間の使い方で、固体と流動体、永続性と一時性の対比を生み出しています。

気流や水流の特性と空間の関係性を探求する中で、表面の穏やかさと内なる緊張の共存を表現。観る者自身も作品の一部となり、エネルギーの循環を体験できます。個人の体験と普遍的テーマを織り合わせ、鑑賞者が自己と世界との調和を模索する旅へと誘います。

# 作品集

## SILVER SCREEN 「銀幕」シリーズ

### 【コンセプト】

本作品は、絶えず揺れ動く鏡面のような表層を持ち、鑑賞者の動き、時の流れ、そして空間との関係性によって刻々と姿を変えていきます。それは、私たちの記憶とアイデンティティが持つ流動的な本質を探求する試みです。

鑑賞者は、自身の姿と周囲の空間が織りなす幻想的な風景の中で、現実と想像の境界を行き来することになります。歪められ、変容する映像は、私たちの自己認識の複層性を浮き彫りにし、新たな気づきをもたらします。

伝統的な佐官の技と先端技術が融合することで生まれる豊潤な感覚体験は、グローバル化が進む現代において、人間存在の本質とは何か、アイデンティティとは何かという根源的な問いを投げかけます。鑑賞者一人一人の内面に響く、個別的でありながら普遍的な体験を創出する本作品は、現代アートの可能性を示唆しています。

Year: 2024

Location: 舞台「楽屋」セット

Size: 100 cm x 23 cm

アクリル、銀コーティング、砂、木パネル





制作コンセプト  
動画  
3:27sec

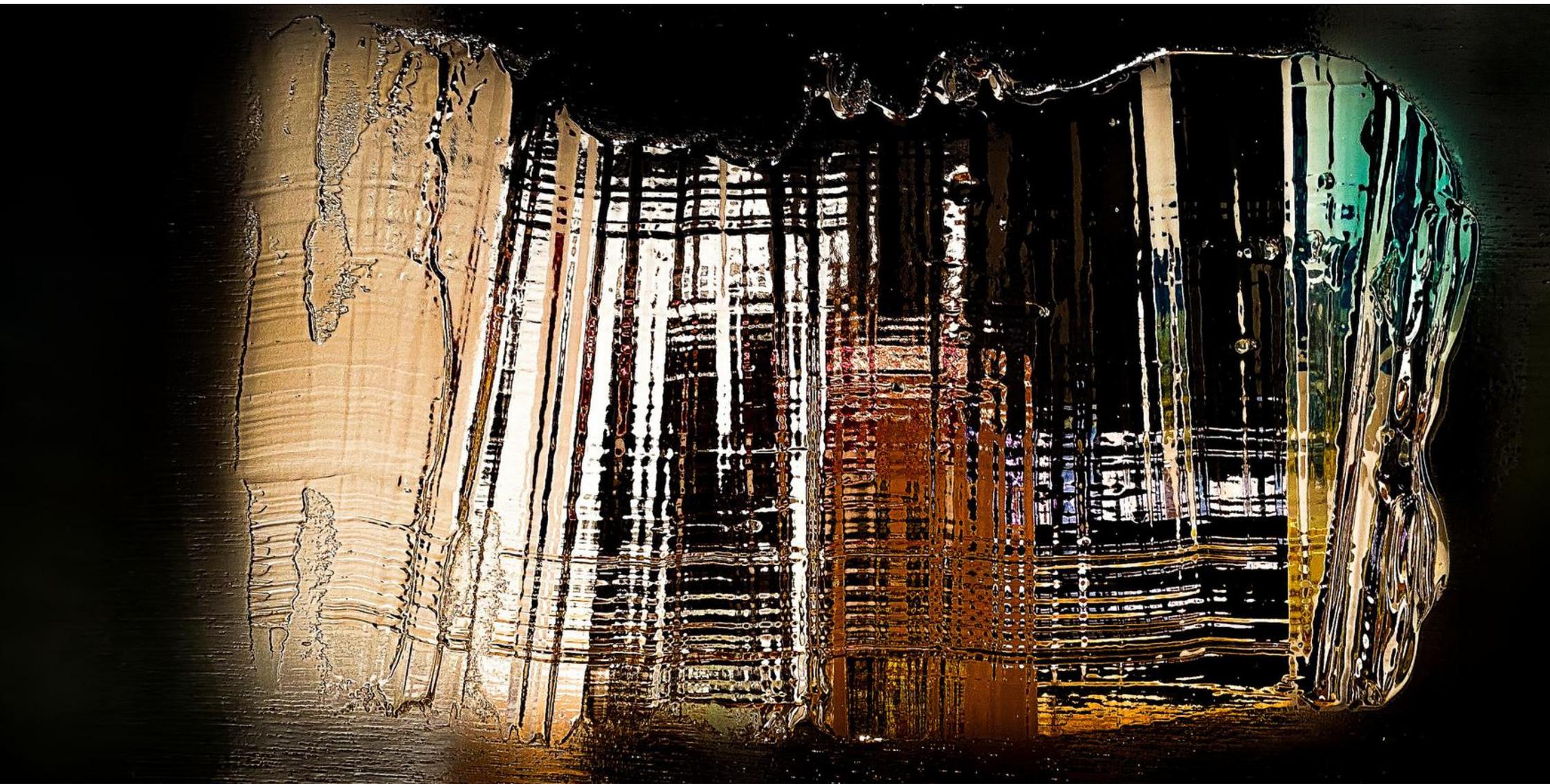
反射する面に映る自己の姿は、私たちの行動に密やかな影響を及ぼします。日常のふとした瞬間に、ショーウィンドウや鏡に映る自分の姿を目にするたび、私たちは無意識のうちに足を緩め、その映像に見入ってしまうものです。

本作品は、この人間の本質的な性質を芸術的な文脈で再解釈しています。作品の反射面に映り込む鑑賞者は、知らず知らずのうちに作品の一部となり、より深い鑑賞体験へと導かれていきます。これは、公共空間における鏡の設置が人々の歩行速度を自然と緩和させる「ナッジ効果」と同様の心理的メカニズムに基づいています。

鑑賞者は自身が作品の一部となることで、より主体的な観察者となり、作品との間に独特の対話を生み出していきます。それは、私たちの無意識の行動パターンを意識の領域へと引き上げ、新たな気づきをもたらす契機となるのです。

Year: 2023

Size: 72 cm x 72 cm



溶けた金属を想わせる反射面に映る自己の姿は、まるで水面に映る月のように揺らめき、私たちのアイデンティティや知覚、記憶の流動性を体現しています。鑑賞者の佇む位置が変わるたび、時間が経過するたび、そして空間の様相が移ろうたびに、映し出される像は歪み、霞み、あるいは鮮明さを増していきます。

照明・時間によって印象が変化し、空間に溶け込みます。

Size: 65 cm x 45 cm

アクリル、銀コーティング、木パネル



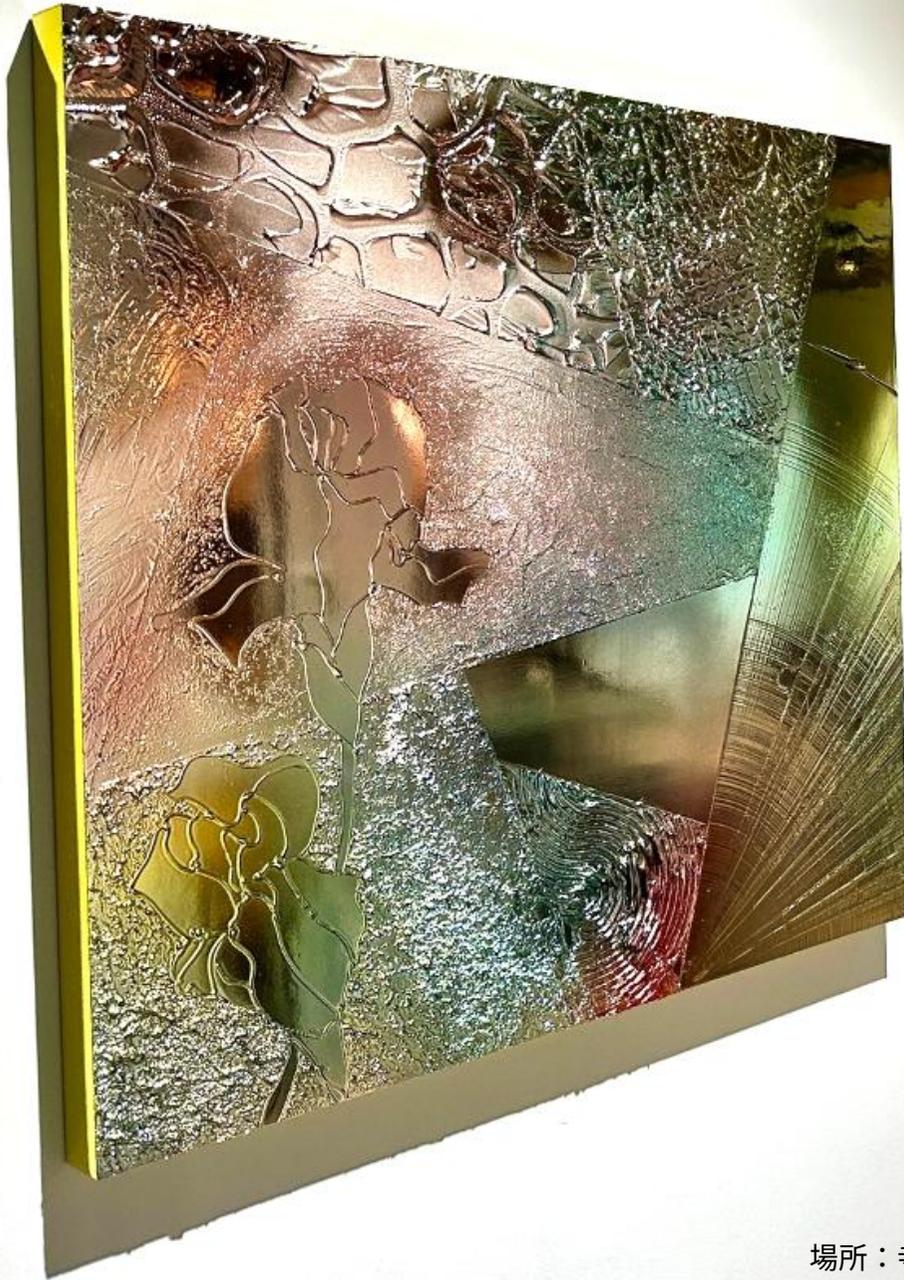
悠久の時を超えて受け継がれてきた墨絵の精神性と、現代アートの大胆な表現手法が交差する本作品では、荒々しい嵐雲を貫く一条の黄金の龍が、天空へと舞い上がります。

伝統的な東洋思想における自然との調和の概念を基調としながら、煌びやかな金彩と深い陰影によって龍の神々しい存在感が浮かび上がります。

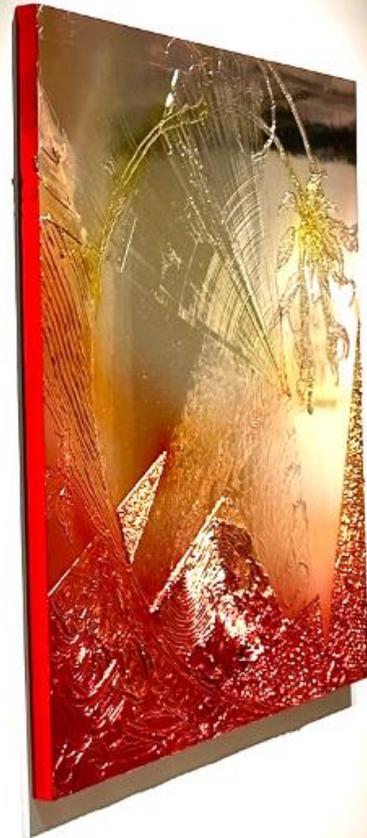
この龍は、生命を育む大地の力強さと、その力を預かる人類の責務を象徴的に表現しています。さらに、背景に散りばめられた雷雲の抽象的なモチーフは、絶え間ない自然の変容を暗示しています。

本作品は、アジアの伝統的な自然観を現代的な感性で再構築し、古来の叡智と今日の環境への意識を融合させています。私たちと自然との不可分な結びつきを想起させると同時に、その繊細な均衡を守ることの重要性を、静かながらも力強く問いかけています。

Title: 金龍  
Year: 2024  
Size: 100 cm x 100 cm



寺田倉庫ギャラリー  
2023年  
72cm x 72cm



場所：寺田倉庫ギャラリー  
Year: 2023  
Size: 72 cm x 72 cm



## 「物質と記憶」 Matter And Memory

悠久の時を刻む伊達冠石と、その上で煌めく流動的な金属の出会い。この作品は、大蔵山が幾万年の歳月をかけて生み出した石の永遠性と、最新のデジタル技術が織りなす刹那の美の融合を表現します。

3Dスキャン技術によって捉えられた石の形状に寄り添うように配された金属質の鏡面は、周囲の光景を映し込みながら、絶え間ない変化の中に存在する美を映し出します。それは、不変の大地と、そこに宿る生命の躍動との対話であり、古代から現代へと続く時間の流れを象徴します。

鑑賞者は石の質感に触れることで太古の記憶に触れ、鏡面に映る自身の姿を通して、内なる世界への旅へと誘われます。それは単なる物質的な体験を超え、人と自然の根源的な結びつきを想起させる静謐な祈りの時間となります。

Year: 2024

伊達冠石・銀コーティング・アクリル樹脂





東洋の精神性と先端技術を融合させ、時間、空間、そして意識を探求する試みです。

中心に据えられたのは、ブッダの悟りを象徴する菩提樹の再解釈。3Dスキャンとプリント技術によって再現され、磨き上げられることで、まるで水晶のような透明感をまといま。このプロセスは、悟りの核心である「空（くう）」の概念を視覚的に表現しています。

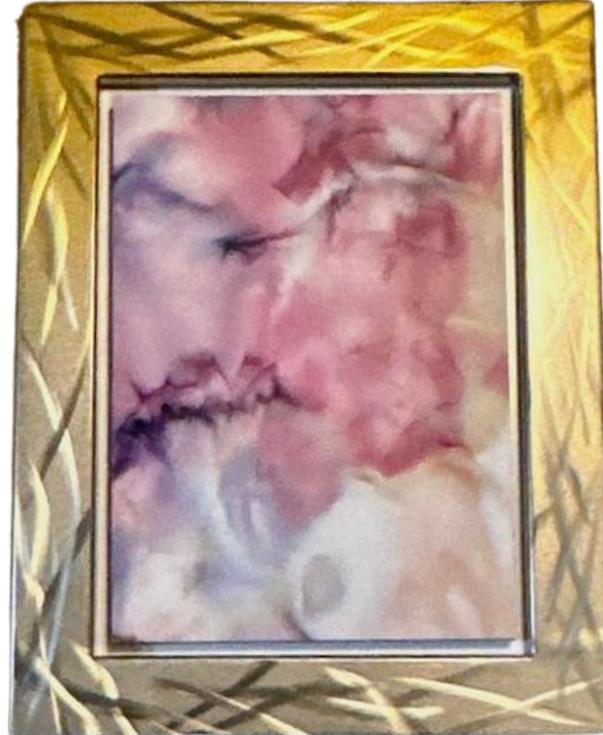
菩提樹は、数百万年の時を経て形成された伊達冠石の上に佇み、地球の悠久の歴史を内包します。

Title: Tree of Enlightenment and Earth's Memory

Year: 2022

Location: The Gallery Ginza, Tokyo, Japan

Materials: Date Kan Stone, Acrylic



## 氷染め

南極の氷を媒介とする革新的なアート作品です。溶けゆく氷に染料を施し、その広がりが布地に独自の模様を生み出します。淡いピンク、紫、青の色彩は極地の風景を想起させます。この技法は、自然の力と人間のコントロールの均衡を探求し、二度と再現できないデザインを生み出します。それは、地球の儂い美しさと脆さの象徴でもあります。作品の一つひとつが特定の瞬間をとらえ、変わり続ける環境を映し出します。オリジナルのフレームに収められた本作品は、極地の厳しさと神秘を体現し、地球に刻まれた時間の流れと進化する自然の本質を観る者に深く問いかけます。

Series Title: Memories of the Glacier Year: 2024

Size: 360 mm × 453 mm × 25 mm (14.2 inches × 17.8 inches × 1 inch)

Materials: Antarctic ice, fabric, dye, steel



## YOKAI HOPEFUL MONSTERシリーズ



Movie  
2:13sec

**日常の風景に潜む違和感に生命を与えたとしたら、それはどのような姿を取るだろうか？**

恐怖や不安といった感情は儚く無形であり、向き合うこと、抽象化すること、そして最終的に克服することが困難だ。日本人は、この課題に対し、不確実な現象を「妖怪」として擬人化する独自の表現方法を発展させてきた。

「妖怪」の概念を現代的にアップデートし、神話学や民族学的視点から社会の不条理や畏怖を考察するパフォーマンス・インスタレーションである。作品前部に着脱可能な加速度センサーを仕込み、身体の座標軸の傾きに連動して象徴的な「妖怪」が動き、変化する仕組みを採用した。ドナ・ハラウェイは「サイボーグ宣言」（1990年）で「機械と生物の混合体としての人間」を提唱し、「サイボーグとは社会のリアリティと同時にフィクションを生き抜く生き物である。私たちの時代、神話的な時代において、私たちはすべてキメラであり、捏造されたハイブリッドである」と述べた。

本作の造形は、ギリシャ神話における神々によって異なる生命体に変身させられた女性の物語に着想を得ている。現代社会における性的アイデンティティや性別役割に対する不安が、このプロジェクトに重要なインスピレーションを与えている。

Title: Hopeful Monster

Year: 2018

Material: PVC, Accelerometer, Fan, Brass, Tube





Year: 2018  
London, White city

Year: 2024

Location: Osaka Art & Design 2024, Nanba Station, Japan





Year: 2022

Tokyo Tatemono, Brillia THE GALLERY, Tokyo

Year: 2023, Mnemonic  
Nagoya Cultural Foundation Japan



Year: 2023

NEW ENERGY Shinjuku, Tokyo 2024





## パブリック彫刻

Title: Symphony of Existence

From a Bird's-Eye View

Year: 2017

Location: Battersea Park, London, UK

Materials: Metal, Wood



concept movie  
2:10sec

